

公共交通利用状況について

《目 次》

1 デマンド交通ひめさゆり利用実績	・ ・ ・ ・ ・	P1
2 高校生通学ライナーバス利用実績	・ ・ ・ ・ ・	P5
3 井栗地区コミュニティバス利用実績	・ ・ ・ ・ ・	P6
4 循環バスぐるっとさん利用実績	・ ・ ・ ・ ・	P7
5 須頃線利用実績	・ ・ ・ ・ ・	P10
6 集計結果の考察と今後の改善策	・ ・ ・ ・ ・	P11

令和元年5月20日(月)

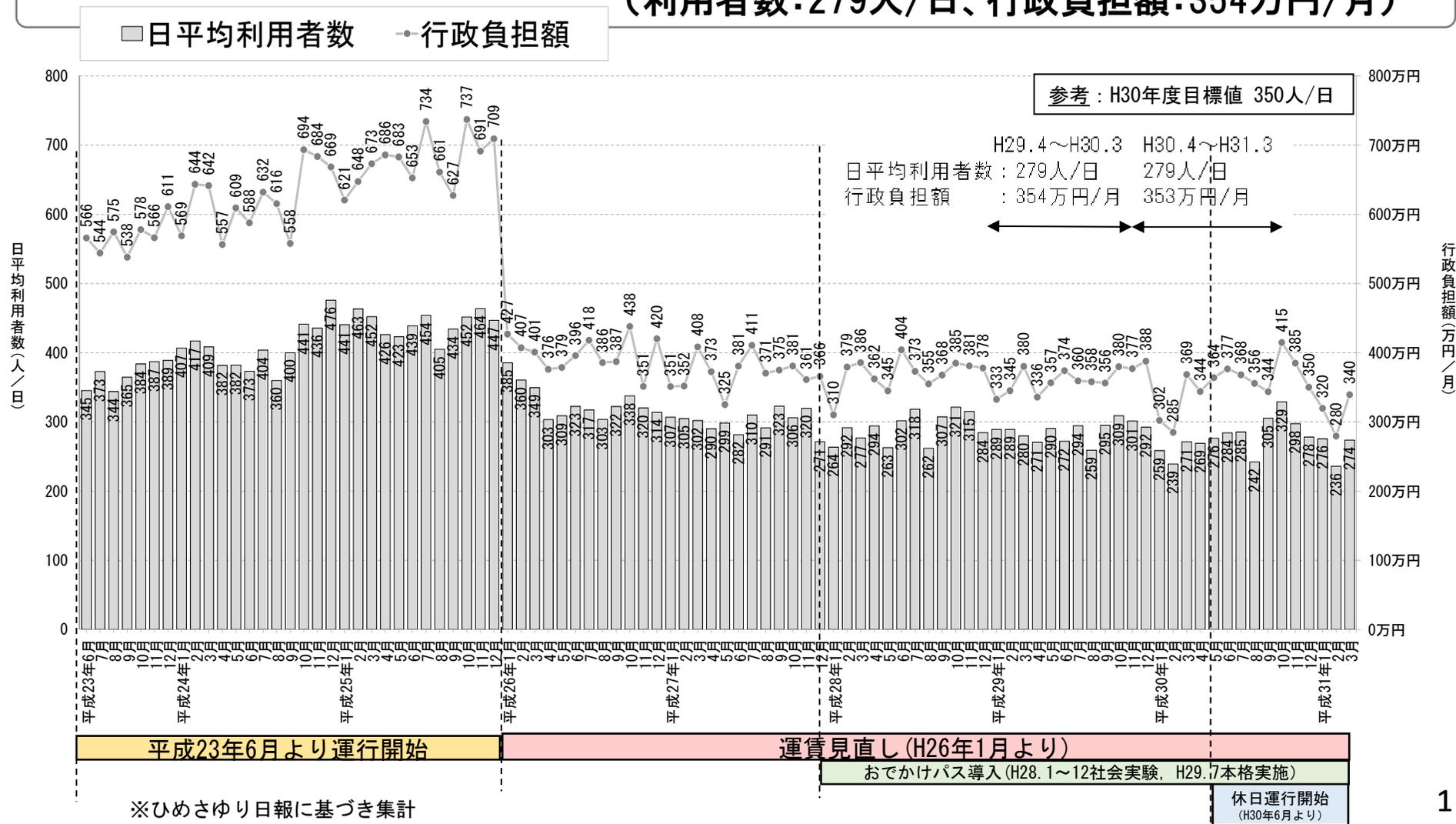
三条市地域公共交通協議会

1 デマンド交通ひめさゆり利用実績

(1)利用者数と行政負担額の推移(平日)

- 利用者数は、約279人/日、行政負担額は、約353万円/月。
- 平成29年度との比較においては横ばいであった。

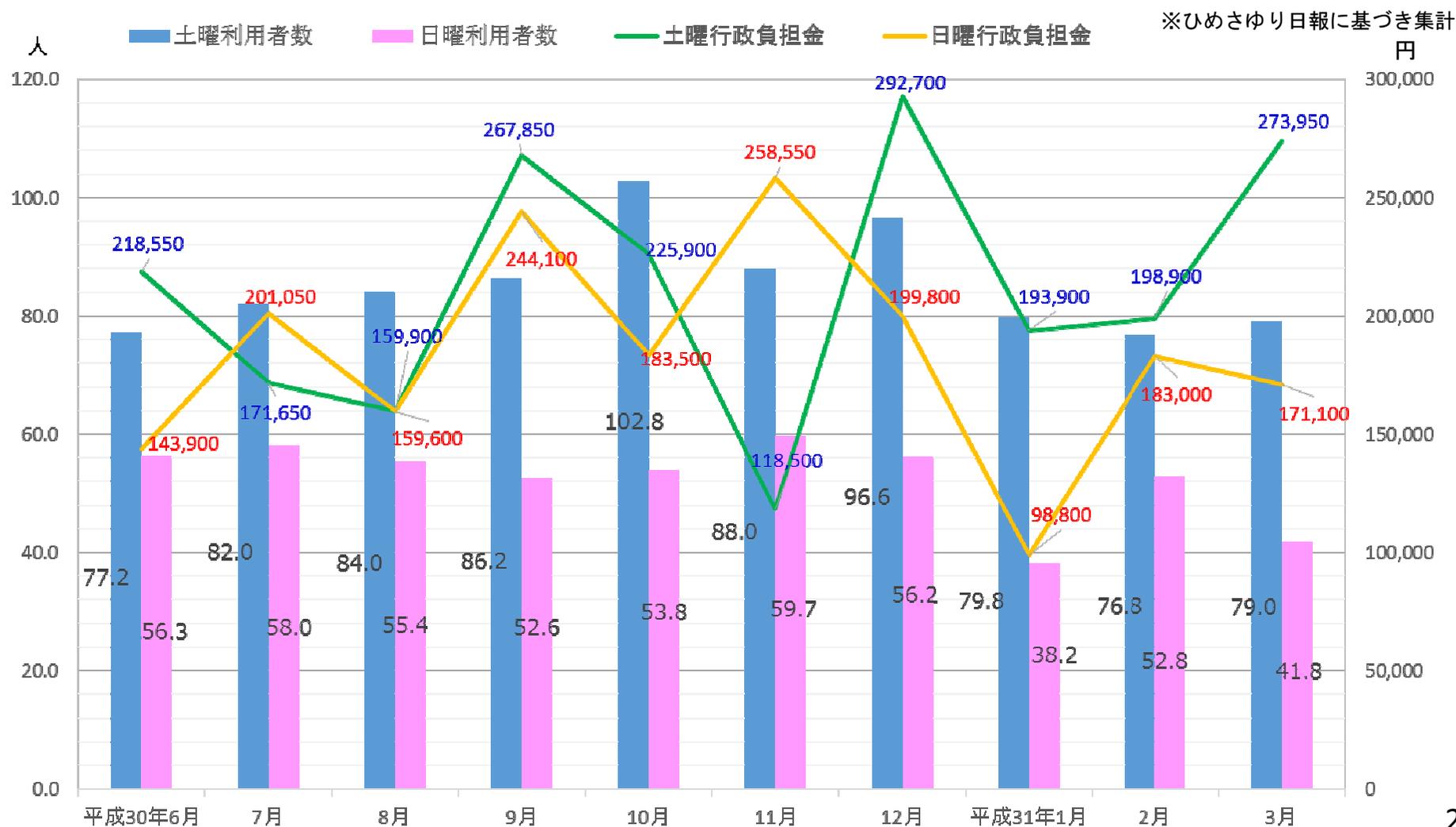
(利用者数:279人/日、行政負担額:354万円/月)



※ひめさゆり日報に基づき集計

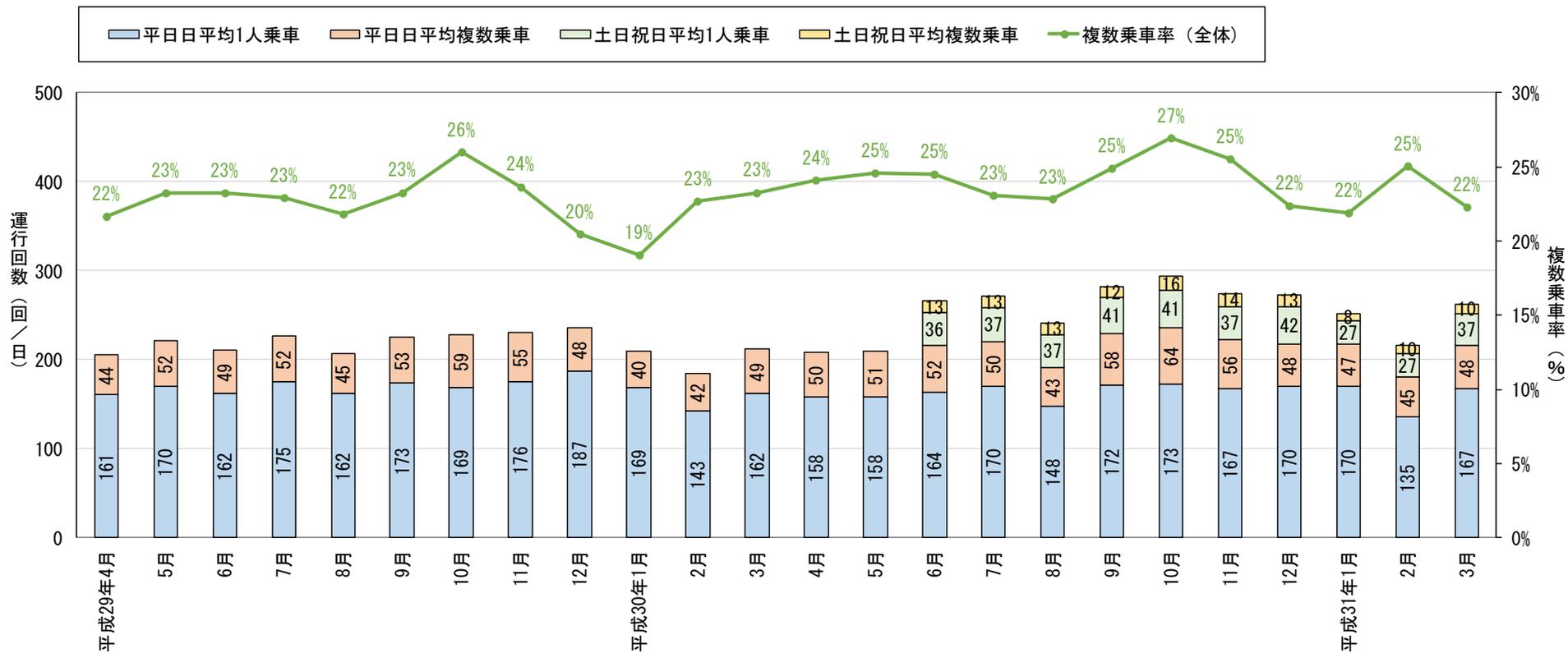
(2) 土日祝日の利用状況

- 土曜の利用者数は約85人/日、日曜は約53人/日。
- 平成29年10月に実施した社会実験時との比較においては、土日共に上回っている。
(社会実験時の利用者:土曜約76人/日、日曜約33人/日)



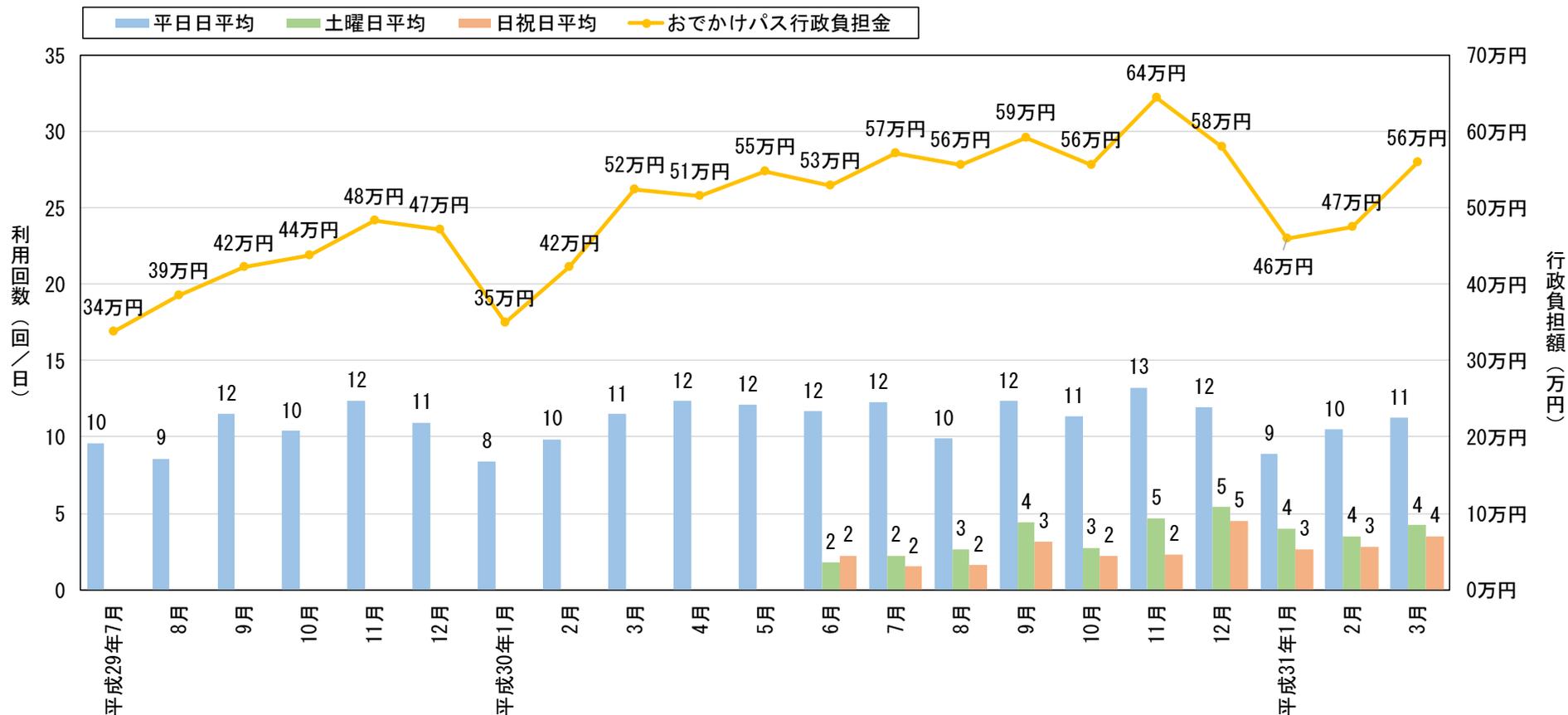
(3) 複数乗車率の推移

- 年間平均は約24.1%(平成30年度)。
- 過去3年間の推移においては増加している。(平成28年度:21.7%、平成29年度:22.6%)



(4)おでかけパスの利用実績

- 平日の利用回数は11.3回／日、土日祝日は2～5回／日で推移。
- 平成29年度との比較においてはわずかに増加している。(平成29年度:10.3回)

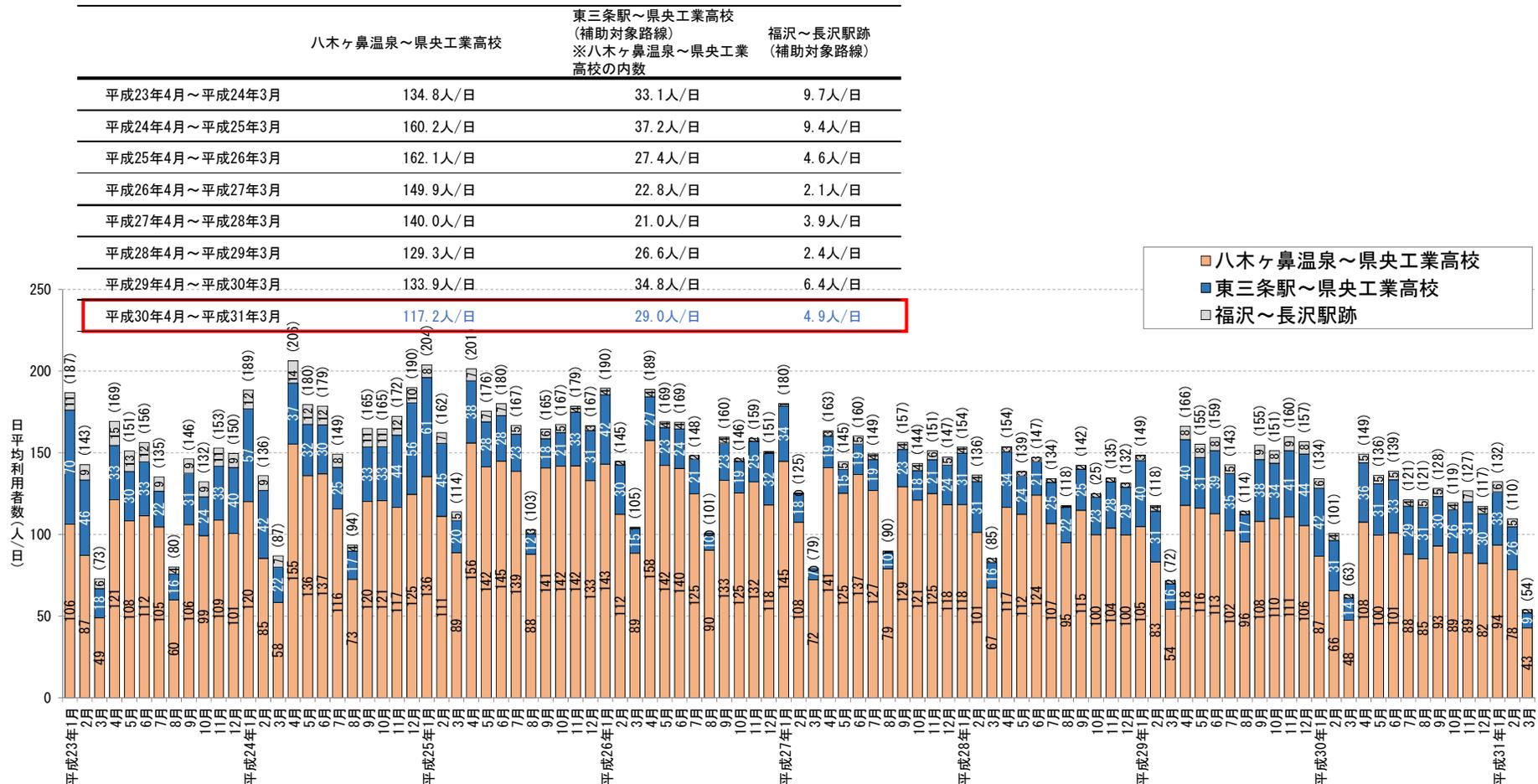


※おでかけパス発行枚数：260枚、協賛店店舗数：72店舗（H30.4時点）
 ※ひめさゆり日報に基づき集計

2 高校生通学ライナーバス利用実績

利用者数の推移

- 平成30年度の実績は下表のとおり
- 平成28年度からの3か年平均との比較においては、路線全体では大きく減少したものの、高校への延伸区間及び福沢線区間では同程度であった。



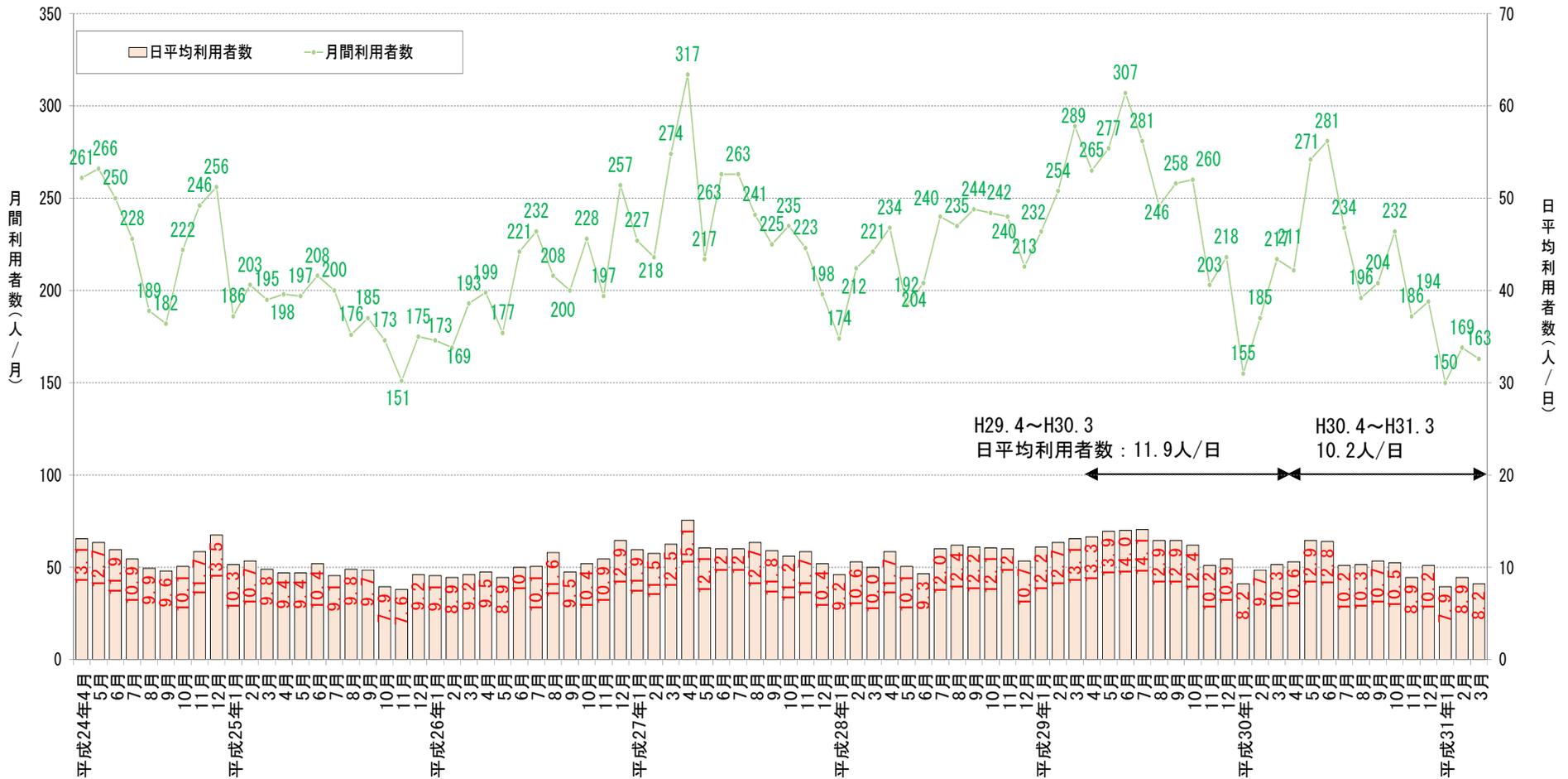
※高校生ライナー利用実績に基づき集計

※()内の数字は合計。合計値は端数処理の関係で一致しない場合がある

3 井栗地区コミュニティバス利用実績

利用者数の推移

- 年間平均は10.2人(平成30年度)。
- 過去4年間との比較においては、横ばいで推移してきた前年度から一転して減少となった。(11.6人/日(平成27年度)、11.7/日(平成28年度)、11.9人/日(平成29年度))



※井栗地区コミュニティバス利用実績に基づき集計

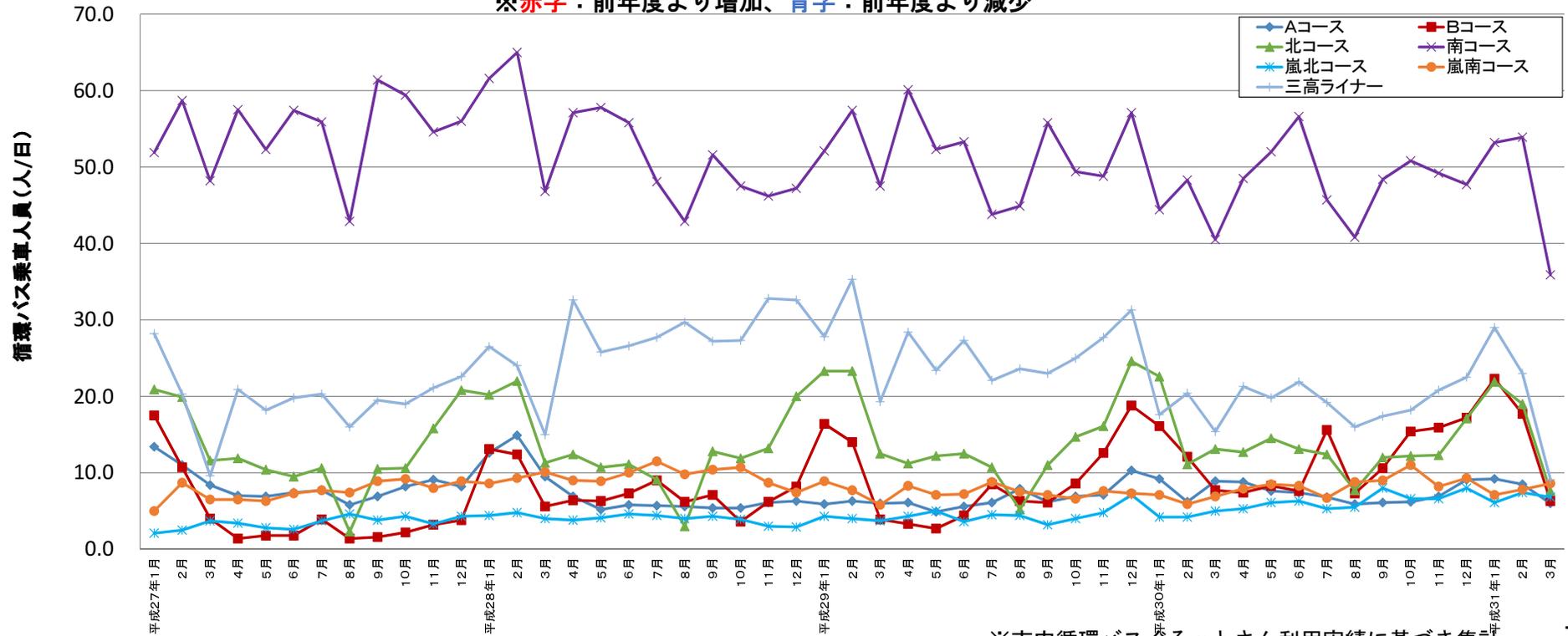
4 循環バスぐるっとさん利用実績

(1) 利用者数の推移

- 利用者数は下表のとおり(平成30年度)
 - 平成29年度と比較した結果は次のとおり
- 【増加】Aコース、Bコース、嵐北コース、嵐南コース
 【減少】北コース、南コース、三高ライナー

	Aコース	Bコース	北コース	南コース	嵐北コース	嵐南コース	三高ライナー	全体
平成26年4月～平成27年3月	9.7人/日	9.3人/日	13.9人/日	49.4人/日	2.6人/日	5.9人/日	19.6人/日	29,852人/年
平成27年4月～平成28年3月	8.7人/日	4.4人/日	13.0人/日	55.9人/日	3.8人/日	8.2人/日	20.2人/日	30,912人/年
平成28年4月～平成29年3月	5.9人/日	7.9人/日	13.6人/日	50.9人/日	3.9人/日	9.1人/日	28.7人/日	31,708人/年
平成29年4月～平成30年3月	7.1人/日	8.9人/日	13.8人/日	49.9人/日	4.5人/日	7.3人/日	23.8人/日	30,330人/年
平成30年4月～平成31年3月	7.4人/日	13.1人/日	13.5人/日	48.6人/日	6.5人/日	8.4人/日	21.1人/日	30,797人/年

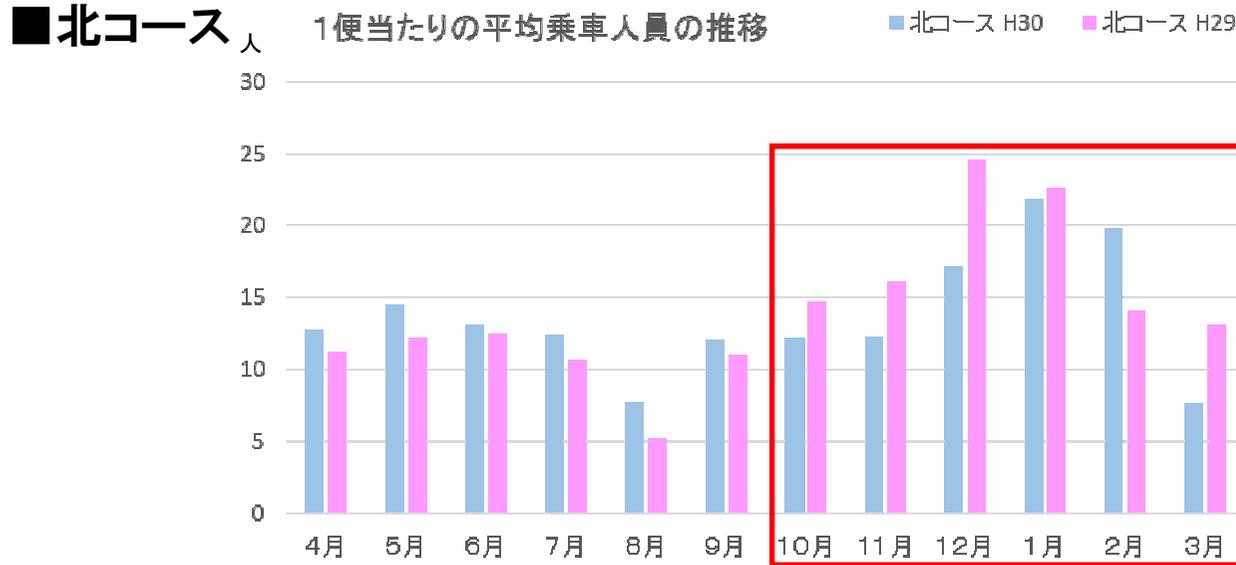
※赤字：前年度より増加、青字：前年度より減少



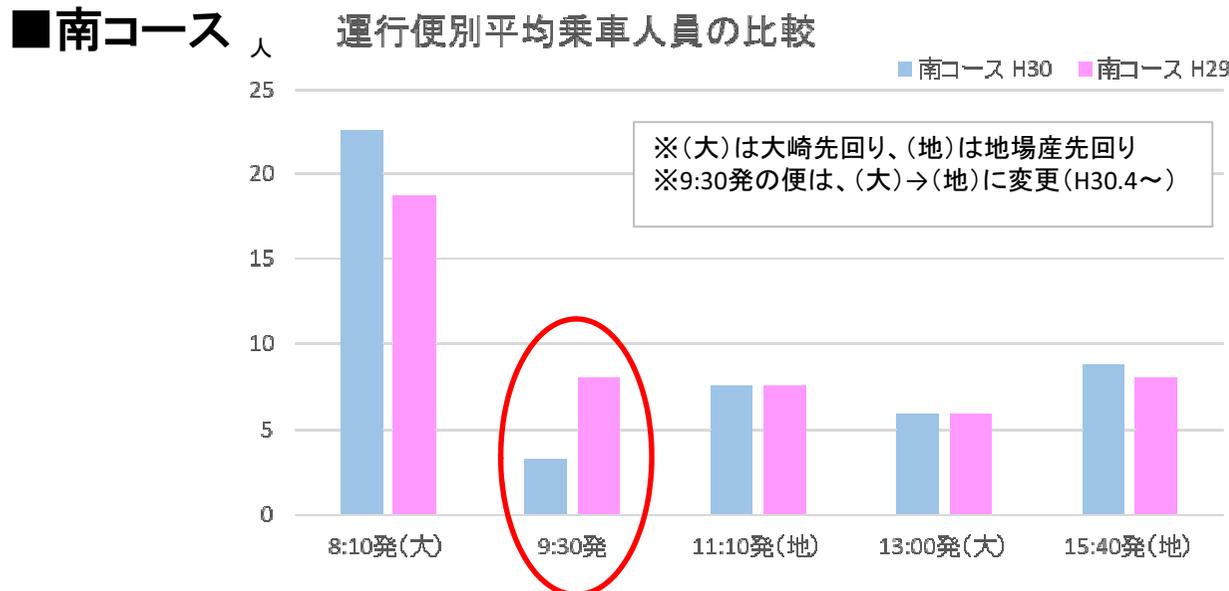
※市内循環バスぐるっとさん利用実績に基づき集計

4 循環バスぐるっとさん利用実績

(2)利用者数の増減詳細分析(平成29・30年度)



上半期(4~9月)は大きな差は見られないものの、下半期(10~3月)に格差が発生している。

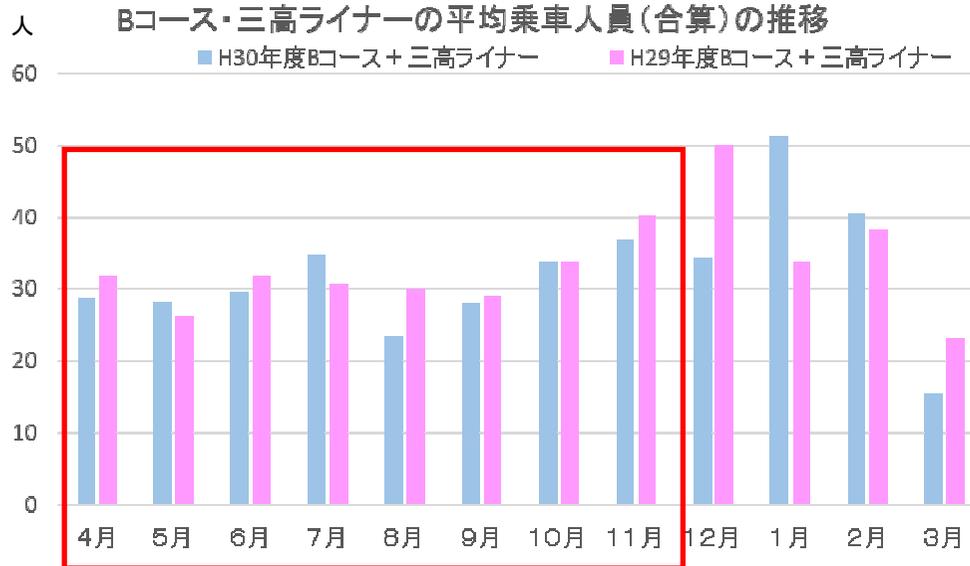


東三条駅9:30発の便について、コース(回り方)を大崎先回りから地場産先回りに変更(H30.4~)したが、利用者数が減少した。

4 循環バスぐるっとさん利用実績

(2)利用者数の増減詳細分析(平成29・30年度)

■三高ライナー・Bコース



北三条駅と三条高校の発着点が同一である2つのコースについて、冬期を除くと同程度の利用者数である。

停留所	Bコース	三高ライナー
三条営業所	7:50	—
北三条駅	8:10	8:10
三条駅前	—	8:17
本成寺黒門	8:16	—
三条高校	8:19	8:25

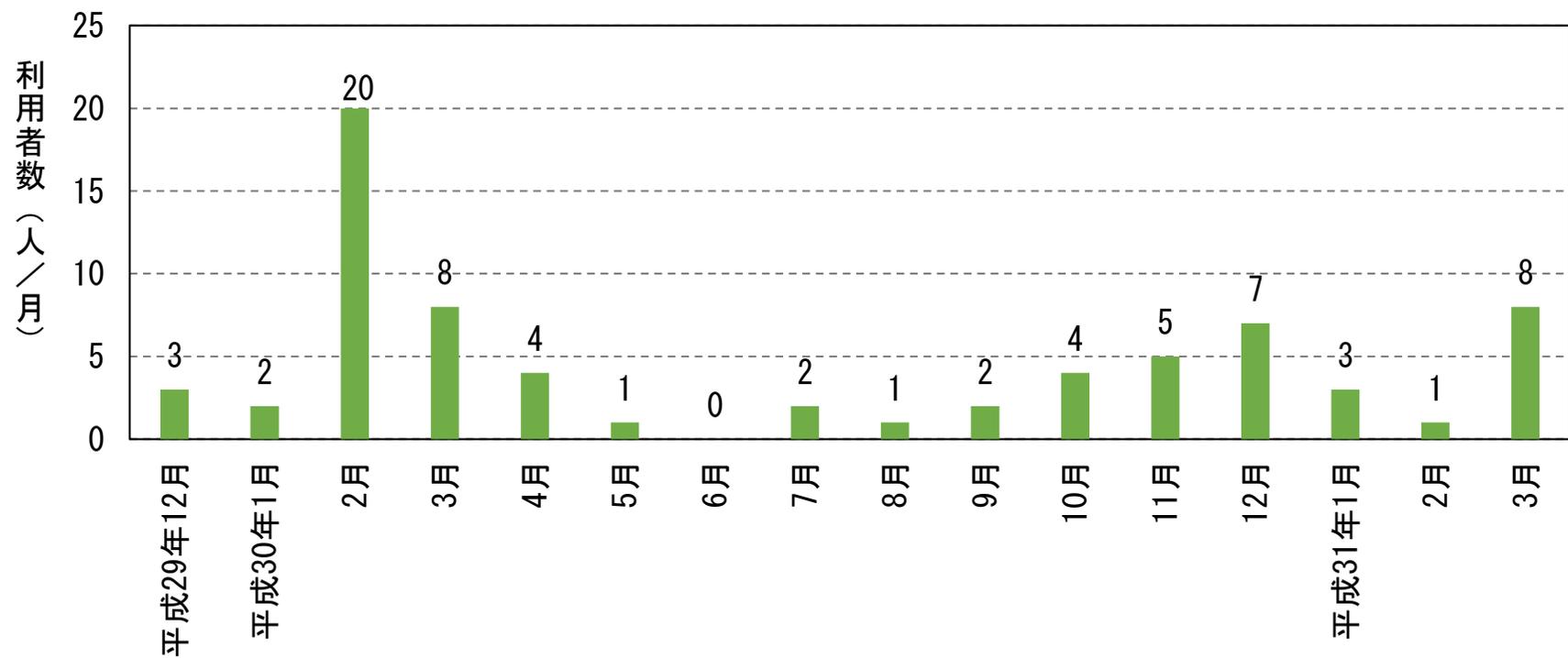
循環バス車両



5 須頃線利用実績

利用者数の推移

- 平成30年度においても低調のまま推移している。



※須頃線利用実績に基づき集計

6 集計結果の考察と今後の改善策

ひめさゆり

- 利用者について、平日は前年度と比べ横ばいであった一方、平成30年6月から開始した全日運行において土曜85人/日、日曜祝日53人/日であったことから、平日からの利用日の変更ではなく新規利用者の獲得またはリピーターの利用回数の増加といった効果が得られたと考えられる。
引き続き、高齢者等を中心に丁寧にPRを行うなど利用者の拡大に努めていく。
- 複数乗車率については、年々増加傾向にあるものの、複数乗車率向上を目的として実施しているおでかけパスの利用回数は大きな増加が見られない。
おでかけパス申込者数も大きな増加が見られず、何らかの対策を講じる必要がある。

高校生通学ライナー

- 下田地域のみならず高校生の数が減少傾向にある中で、引き続き沿線の中学校卒業生にチラシを配布するとともに、東三条駅－高校間の利用拡大を図るため、沿線以外の市内中学校卒業生にも周知を行うなど更なる利用促進策に取り組む必要がある。

6 集計結果の考察と今後の改善策

井栗地区コミュニティバス

- 利用者数は長らく安定していたが、平成30年度においては前年度と比較すると減少しており、利用離れが懸念される。住民の利用を促すためにも、今一度、自治会内でチラシを配布して周知を行い、地域の足を守っていく意識の醸成に努めていく。
- 現在実施している地域主体のコミュニティバスの運行内容を栄・下田地域で実施することについても、地元と丁寧に話し合いをしながら利用ニーズ踏まえ検討していくことが重要である。

循環バスぐるっとさん

- 全体的な傾向としては各コースとも年度毎に増減を繰り返している状況となっている。
- 下半期(特に冬期)にかけて利用者の変化が見られることから、利用動向が天候に左右されていると推測されるため、安定的な利用を図るべく交通体系全般の見直しを進める中で抜本的な改善策を検討していく必要がある。

須頃線

- 須頃地域北西部の住民向けのルートであり、他の公共交通と比較して利用者数は大幅に少ないものの、同地域を運行している新飯田線が減便となる中、今後も必要な路線であることから、周知等に努めていく必要がある。
- 平成32年度以降、同地域に(仮称)三条技能創造大学、(仮称)三条看護・医療・歯科衛生専門学校、県央基幹病院などの公的施設が整備され、将来的に路線の需要が見込まれることから、利便性の高い交通への見直しを検討する必要がある。